

いのちの食卓スクール

小田原の一次産業から、生きるを学ぶ。

2026年度 おだわら若者応援コンペティション応募企画

NPO法人MOTTAI × あそと株式会社



私たちが感じている課題

◆ 小田原の魅力的な一次産業

小田原の豊かな自然に育まれた、多様で持続可能な魅力あふれる現場が存在しています。

- ✓ 畑や農地 — 美しい果樹景観と農家さんらの想い
- ✓ 漁港や魚 — 相模湾の豊かな恵みと歴史ある漁業
- ✓ 森や里 — 小田原の水源を守り育む大切な森林
- ✓ 狩猟 — 命と直接対峙し、野生動物との調和を図る仕事

▲ 現場に触れる機会の不足

しかし、一次産業という「いのちの現場」に接続できる場所は極めて限られています。

- ✗ 食べるだけ — 消費することのみに終始し、その裏側に触れない
- ✗ 知る機会がない — 生産者のこだわりやリアルな苦勞を知る機会がない
- ✗ 関わる入口がない — 興味があっても、どこから参加すればいいかわからない

こんな未来をつくりたい

「消費者」としての若者

- 🏪 お店に並ぶ食べ物を「買う」だけの関係
- ＼ 生産現場の物語や課題は不透明なまま
- 🚫 地域との強いつながりや関わりは生まれない



意識の変革

「応援者」としての若者へ

- 👤 魅力的な小田原の生産者と出会う
- 🕒 一次産業が育まれる現場の知見を得る
- 📍 現場を訪ねることで、地域を好きになる

👤 将来的な担い手・応援者・関係人口に！

いのちの食卓スクール:事業概要

小田原の豊かな自然環境をフィールドとし、全6回の実践的なフィールドワークを通じて、一次産業の「リアル」と、そこにある「いのち」を深く体系的に体感するプログラム。



実施期間

2026年9月～
2027年2月



メイン対象

市外・市内問わず
20~30代



定員数

15名程度



実施形式

全6回
フィールドワーク中
心

プログラムの全体像



活動における数値目標



15名

スクール受講生数



100名

全6回 延べ参加者



90%以上

受講生のプログラム満足度



50件以上

SNSを通じた学びの発信件数

本事業から生まれる期待される成果

若者への効果

- ◆ **一次産業への理解向上**
食の背景にあるリアリティや知恵、苦労を理解します。
- ◆ **地域とのつながり形成**
小田原が「通い続けたい場所」となる、心のふるさつをつくります。

生産者への効果

- ◆ **若者との接点創出**
普段は交流の少ない意欲的な若者世代と直接繋がります。
- ◆ **応援してくれる人の増加**
単なる労働力としてでなく、ビジョンを共有する支援してくれる方を獲得します。

地域への効果

- ◆ **関係人口の増加**
地域資源を主体的に応援する「能動的な熱量」を持つ層を拡大します。
- ◆ **小田原の魅力発信**
若者目線でのSNS発信等を通じ、小田原の価値を拡散します。

事業後の展開: 持続可能なモデルへ

自立的な継続モデルの構築

複数の財源と強固な協力体制を組み合わせることで、一過性の活動ではないサステナブルな経営モデルを確立します。

参加費収入

企業協賛

行政連携

基金助成

- ✓ **多角的な財源ポートフォリオ**
補助金依存から抜け出し、企業協賛や参加者受益を組み込みます。
- ✓ **行政・他セクターとの連携**
小田原市や地域金融機関と密接に連携し、地域事業としての地位を強固に。

将来的なビジョンと展開

スクールでの気付きを基盤に、より広く地域・教育・社会へとつなぐ長期的な仕組みづくりを目指します。

小田原版食農スクール

高校・大学連携

- ✓ **教育機関との共同カリキュラム**
地域の高校や大学と連携し、単位互換が可能な学びの場へ拡張。
- ✓ **修了生コミュニティのプラットフォーム化**
単発に終わらせず、持続的に小田原の一次産業と接点を持ち続ける土台を構築。

小田原の未来を支える仲間を育てる

「食べる人」と「つくる人」をつなぐ。

いのちの食卓スクール

NPO法人MOTTAI

×

あそと株式会社